

事務事業評価表 平成22年度

政策 明日につながる産業の振興
 施策 都市型農業の推進
 基本事業 農畜産物の付加価値化

事業名 **江別の米で酒を造ろう会支援事業**

[6055]

部名	経済部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	農業振興課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>生産者・市民</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>江別市内で生産された米を使用して、地酒「瑞穂のしずく」を造り、地酒のPRをするとともに、江別産米の消費拡大を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>江別産米を原料とした地酒を委託方式により醸造するため、生産・流通・販売に関する企画立案を支援する。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	酒造好適米 彗星」作付農家戸数	戸	4	4	4	4
対象指標2	市民	人	123,537	123,054	122,568	122,568
活動指標1	会合回数	回	3	4	10	2
活動指標2						
成果指標1	「瑞穂のしずく」販売量	リットル	6,219	6,486	5,359	7,000
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	0	0	0
正職員人件費 (B)		千円	1,675	1,672	2,489	2,498
総事業費 (A) + (B)		千円	1,675	1,672	2,489	2,498

費用内訳	
21年度	

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	市内の米消費拡大を目的として地酒を開発するため江別の米で酒を造ろう会が発足した。	事業を取り巻く環境変化	江別産米の消費拡大に貢献するとともに、飲食店より新たな利用方法が提案されている。
--------	--	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業
 妥当である
 妥当性が低い

理由・
 根拠は？

米の販売振興策として市の取組は妥当です。また市が参加することにより、他業種への周知が可能となり、また報道機関への情報提供が容易になります。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい
 貢献度ふつう
 貢献度小さい
 基礎的事務事業

理由・
 根拠は？

原料米を酒米に変更したことにより、生産農家・生産面積が限られていることから、直接的な米の消費拡大につながりにくいですが、江別ブランドないし他の江別の特産物のカンフル剂的役割を担えるようPRに努めていきます。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている
 どちらかといえばあがっている
 あがらない

理由・
 根拠は？

日本酒離れによる新規需要が伸び悩んでいるが、「瑞穂のしずく」は、原料米を酒米に変えたことが功を奏し、売れ行きが伸びています。一方で、消費者ニーズに合わせた製造が難しいことから、需要と供給のバランスがあわず、苦戦を強いられています。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大
 成果向上余地 中
 成果向上余地 小・なし

理由・
 根拠は？

行事などを通し「江別の地酒 瑞穂のしずく」をPRしていく必要があります。しかし、原料米を酒米に変えてから売れ行きが好調であり、供給が追いついていない状況ではありませんが、製造量を簡単に増やせない事情もあることから、販売量を増やすことはできません。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

ある
 ない

理由・
 根拠は？

会員の役割分担を明確にし、協力を図った結果、運営に対する協力を得られています。